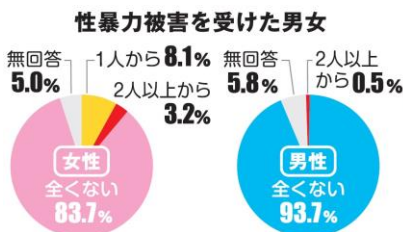


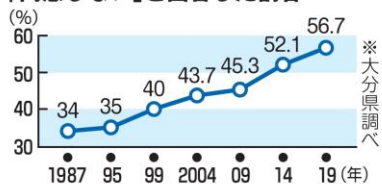


県は2019年度に実施した「男女共同参画社会づくりのための意識調査」の結果をまとめました。

① 新たな設問の性暴力について、被害経験があると答えた女性は何%でしたか？また、被害を相談しなかった女性の割合は？



「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感しない」と回答した割合



性暴力についての問いは、被害者を支える県の救済センター「すみれ」を16年度に開設したことから追記した。被害経験について、男性の93.7%は「全くない」と回答。女性は「1人から」「2人以上から」を合わせて11.3%だった。女性経験者の66.2%が被害を相談せず、理由は「恥ずかしくて言えなかった」が59.2%で最多。「男は仕事、女は家庭」に「同感する」は男女合わせて6.4%（前回14年度は8.8%）。「同感しない」は男女合わせて11.3%（前回14年度は8.8%）。

県が意識調査

県は2019年度に実施した「男女共同参画社会づくりのための意識調査」の結果をまとめた。新たな設問の性暴力について、被害経験のある女性は11.3%に上った。「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感しない」人の割合は前回調査に続いて増えるなど、性別による固定的な役割分担意識は解消されつつあることがうかがえた。

性暴力被害 11.3%

女性66% 相談できず

② 「男は仕事、女は家庭」に「同感する」は男女合わせて何%でしたか？「同感しない」は何%で、前回（14年度）の調査と比べてどうでしたか？

「同感する」と答えたのは男女合わせて6.4%。「同感しない」は56.7%で前回（52.1%）より増えた。

「女性は家庭」に「同感せず」増加

調査は1987年度以降、ほぼ5年おきに実施。2019年度は県内に住む18歳以上の男女3千人を無作為に選り、1082人から回答を得た。有効回答率は36%。

学校の教育現場（15.3%）、法律や制度上（41.9%）より高く、理想と現実にはギャップがある実態が浮かび上がった。女性が仕事を持ち続けるために必要な支援は「家族や周囲の理解と協力」が62.8%、「育児・介護の施設の充実」が53.7%。男性の育児・介護休暇取得については「賛成だが、現実には取りづらい」が66.1%に上った。県の県民生活・男女共同参画課は「意識改革は道半ば。調査結果を21年度からの第5次おおいた男女共同参画プランや、女性活躍推進といった施策に生かしていく」と話している。（山口真由）

③ 男女の平等感で「男性が非常に優遇されている」「どちらかといえば」を合わせた割合が高かったのは？三つ書いてください。

政治の場、家庭生活、職場

④ 女性が仕事をもち続けるために必要な支援で最も多かったのは「家族や周囲の理解と協力」です。あなたは何が一番大切だと思いますか？

あなたの考えを自由に書いてみよう。